

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和8年3月30日

提出区分	実績	整理番号	9	課題区分	C		
横断的な課題	木曾らしさを活かした観光振興						
地域重点政策	木曾らしさを活かした観光振興					木曾地域振興局	
実施機関	木曾地域振興局			担当課	所属	商工観光課	
事業名	木曾地域観光・農産物等魅力発信事業			電話	0264-25-2212		
				E-mail	kisochi-shokan@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要	目的 (目指す姿)	木曾地域の事業者、行政機関等が一体となって、木曾地域の観光、農産物等をPRし、当地域の認知度及び関心度の向上を図る。					
	現状と課題	<p>【観光客等】 ○当地域の観光地利用者数はコロナ禍前と同水準まで回復しつつある^{※1}が、依然として御嶽山を訪れる観光客はH26の噴火前の3割余に留まっている。^{※1}</p> <p>【特産品】 ○令和6年度開催の同イベントで行ったアンケート調査によると、当地域の特産品である「すんき」や「とうもろこし」の認知度が低い。^{※2}</p> <p>【県の施策等】 ○県では令和7年度末を目標に「御岳県立公園」の国定公園化に取り組んでいる。 ○令和5年4月に「長野県の美しい伝統的工芸品を未来につなぐ条例」が施行された。(なお、当地域伝統的工芸品の全国における認知度は低い^{※3}状況。)</p> <p>【外部環境】 ○令和6年4月下旬に商業施設、文化センター、オフィス及びホテル等を有する中日ビル^{※4}が新たに開業し、多くの集客が見込まれる。R7.10.11に中日新聞社主催の移住フェアが中日ビルで開催予定。 ○令和6年度開催の同イベントで行ったアンケート調査によると、木曾に訪れたことがある人が全体の8割以上おり、さらに木曾地域をPRすることでリピーターの創出につながると考えられる。^{※5}</p> <p><small>(※1) 令和5年観光地利用者統計調査(長野県観光部)木曾地域の観光地利用者22,547百人(R円)⇒22,776百人(R5) 御嶽山の観光地利用者(木曾町+玉滝村)2371百人(H25)⇒769百人(R5) (※2) 令和6年10月4、5日に中日ビルにて開催した同イベントでの木曾地域に関するアンケート結果より、「すんき」について「知っている」と回答した人数が135人に対し、「知らなかった」と回答した人が207人、「とうもろこし」について「知っている」と回答した人数が58人に対し、「知らなかった」と回答した人が18人であり、いずれも当地域の特産品であることを「知らなかった」という結果となった。 (※3) 産業技術課が実施した信州の伝統的工芸品に関する「リブランディング潜在力全県調査」(令和4年度) 認知度について、当地域で最も高いものでも「木曾漆器」で県内において78%、全国において31.1%であり、「木曾材木工芸品」については県内の36.3%に対し全国が17.4%という低い水準でとどまっている。 (※4) 所在地:名古屋市中区栄 階数:地下5階、地上33階 延床面積:約117,000㎡ その他:長野県名古屋事務所・名古屋観光情報センター入居 (※5) 令和6年10月4、5日に中日ビルにて開催した同イベントでの木曾地域に関するアンケート結果より、「木曾地域を知っているし訪れたことがある」と回答した人は全体の86.5%である320人であった。</small></p>					
内容 (変更後の内容)	<p>○局内の課・所、管内町村及び木曾広域連合等と連携し、中日ビルにおいて令和7年7月から令和8年2月にかけて木曾地域の観光と農産物等をPRし、木曾地域の認知度向上を図る。(令和7年10月11日については、中日新聞社主催の移住フェアに併せて実施予定。)</p> <p>○期間中毎月1回程度木曾をPRするイベントを開催。うち3回は体験ブースや抽選会などを含めたイベント、残り5回は1~3事業者による物販や各町村のPRを実施する。</p> <p>○事業者物販のみを行う期間を設けることで、今後事業者自ら率先してイベントを行うことができるよう後押しをする。</p>						
事業期間	令和7年7月			～	令和8年2月		
(単位:円)							
事業費等	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	木曾地域観光・農産物等魅力発信	<p>○事前打ち合わせ3回</p> <p>○新聞社への事前告知</p> <p>○物販5回(8月、9月、11月、12月、2月)</p> <p>・事業者による物販</p> <p>・木曾地域の観光等のPR</p> <p>○イベント3回(7月、10月、1月)</p> <p>・事業者による物販</p> <p>・体験ブース設置、抽選会</p> <p>・各所属による木曾地域の観光等のPR</p> <p>(総務管理・環境課)</p> <p>国定公園化を見据えた御嶽山の魅力のPR、御嶽山安全登山のための啓発</p> <p>(林務課)</p> <p>木曾地域木材関連産業のPR</p> <p>(農業農村支援センター)</p> <p>木曾地域の農産物のPR</p> <p>(企画振興課)</p> <p>木曾地域への移住に向けたPR</p> <p>(商工観光課)</p> <p>木曾地域の観光ポスター及び観光パンフレット配布、木曾地域に関するアンケート実施</p>	674,991	<p>○職員旅費(8節) 426,531円</p> <p>○チラシ用紙代、消耗品等(10節) 97,104円</p> <p>○役員費(11節) 56,502円</p> <p>○使用料(13節) 94,854円</p>			
合計			674,991				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	木曾地域観光・農産物等に対する関心が向上した人の割合(来場者アンケートを実施)		80%	100%	● 達成		
来場者アンケート回収数		500件	714件	○ 一部達成			
				○ 未達成			
事業実績・成果	<p>次の取組みを実施したことにより、成果指標について目標値を上回る成果を得ることができ、木曾地域の認知度向上につながった。</p> <p>①単発ではなく7月から2月にかけての通年開催とし、各季節ごとの木曾地域における魅力を発信</p> <p>②木曾広域連合と連携し参加事業者を公募し応募のあった延べ14事業者による物販を実施</p> <p>③②の事業者が販売する商品やその他木曾の産品・木曾地域内に所在するスキー場や観光施設で使用できる優待券などが当たる抽選会を開催</p> <p>④7、10、1月の3イベントでスタンプラリーを実施し、3回全てのイベントに来場した人へ木曾地域のお菓子をプレゼント(景品交換数25個)</p> <p>⑤郡内の観光パンフレットやイベントチラシの配布</p> <p>⑥在名新聞社2社への本イベント告知(7月および10月)</p>						
今後の方向性	令和8年度以降は振興局における観光部分が木曾広域連合に移行され一つの組織となることから、木曾広域連合として観光PRイベントを継続していく場合は本事業における開催方法を参考に、中京圏だけでなく他地域も視野に入れより効果的な木曾地域のPR方法を検討していく。						